

2021年度版

環境経営レポート

報告期間（2021年4月～2022年3月）



株式会社 特殊鍍金化工所

2022年 5月 20日

目 次

1.	環境経営方針	1頁
2.	会社概要	2頁
3.	実施体制	3頁
4.	環境目標	4頁
5.	環境活動計画	5頁
6.	環境活動の取り組み結果と評価	6頁
7.	次年度の取り組み内容	7頁
8.	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	7頁
9.	代表者による全体の評価と見直し	7頁

独自技術の紹介

TMX／CSZめっき

銅・すず・亜鉛による三元合金めっき
抗菌・非磁性・耐食性に優れるめっき皮膜
TMX，CSZは当社の登録商標です。

塩化銀処理

銀表面を黒化処理することにより安定した微弱電流を検出可能です。

1. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

1. 環境理念

株式会社特殊鍍金化工所は「不可能に挑戦する」をコンセプトに、事業活動に伴い発生する地球環境への負荷(環境汚染、地球温暖化、資源の枯渇)を低減するため、未来を拓く企業として地球環境の保全に努め社会へ貢献することを目指します。

2. 環境保全への行動指針

「人が創る21世紀の特殊鍍金化工所」をスローガンとし、事業活動に伴うすべての環境問題に対し、継続的改善と汚染の予防を経営課題の重要項目の一つとして、次の活動を展開し環境の維持向上に努めます。

1. 環境汚染を防止するため、めっき加工の事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、これらに関連する環境の法規制及び技術的・経済的に可能な範囲で自主的改善目標を遵守いたします。
2. 省資源、省エネルギー廃棄物削減を目指し環境保全と汚染の予防及び資源のリサイクルを促進いたします。
3. 環境に配慮した製品加工プロセスの開発を推し進めます。
4. 有機溶剤、使用化学薬品の適正管理に努めます。

2020年4月(全面改定)

株式会社 特殊鍍金化工所

代表取締役社長 紫 太

2. 会社概要

*事業内容

1. 事業者及び代表者

株式会社 特殊鍍金化工所
代表取締役社長 柴 太

2. 所在地

〒181-0011 東京都三鷹市井口3-15-8

3. 創業および資本金

1963年7月 創業
資本金 1,000万円

4. 事業内容

- ・ 貴金属を主とした電気めっき加工
各種コネクタ・接点、産業機器部品、原子力用機器部品、
精密顕微鏡部品、装飾品関連、医療等
- ・ めっき等の種類
「TMX/CSZ」(銅：すず：亜鉛の三元合金)、銀、銅、ニッケル、

5. 環境保全関係の担当者、連絡先

環境管理責任者 露木 広治

Eメール：tsuyuki@tmk.co.jp

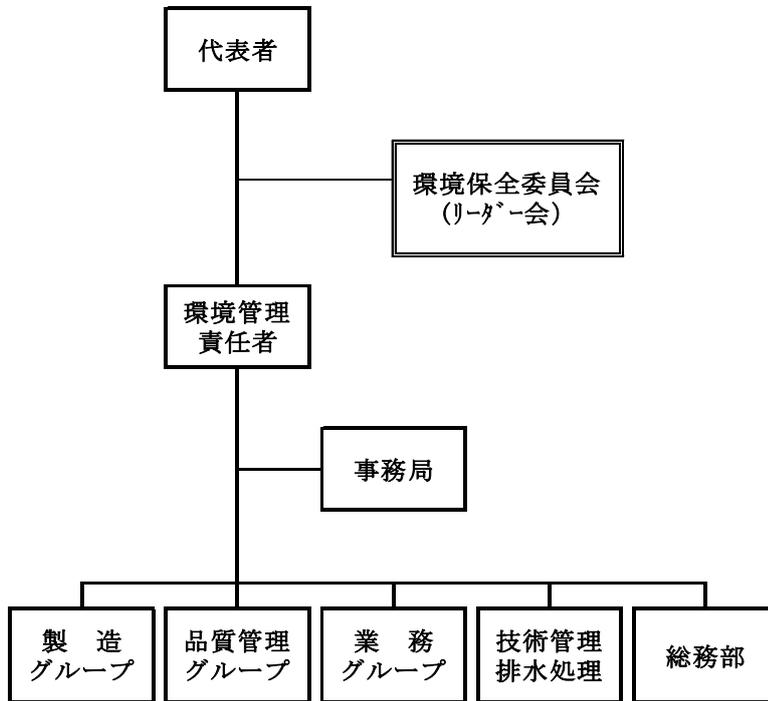
連絡先 TEL：0422-31-2313 FAX：0422-31-2062

*事業規模

活動規模	単 位	2019年	2020年	2021年
売上高	百万円	146	135	140
従業員数	人	18	13	13
延床面積	m ²	990	990	990

*認証登録範囲：電気めっき業

3. 実施体制



	役割・責任・権限
代表者	環境方針を定める 環境管理責任者を指名 資源(人材・資金・技術)の用意 システムなどの見直し
環境保全委員会	全体の進捗管理
環境管理責任者	システムの総責任者として役割権限を他の責任にかかわらず持つ システムの実績を代表者に報告
事務局	全体計画の立案 文書の作成管理 一般教育の実施 システム運用上の事務管理
全従業員	環境方針の理解と、自主的・積極的な環境活動への参加 生産活動の見直しによる、作業手順等の改善

4. 環境経営目標（中期計画）

大項目		項目名		基準値 2017年	目標値 2022年	目標値 2023年	目標値 2024年
1	環境負荷の削減						
	(1)二酸化炭素の削減	電気使用量の削減	kwh	279,514	262,743	259,948	257,152
	(2)節水	水使用量の削減	m3	6,338	5,957	5,894	5,830
	(3)廃棄物の削減	①事業系一般廃棄物の削減	kg	680	639	632	625
		②廃プラスチックの削減	m3	10.5	9.9	9.8	9.7
2	環境汚染物質の削減	VOC物質（揮発性有機化合物）の削減	kg	2,690	2,528	2,501	2,474
3	法規制の遵守	環境に関わる法律、規制、協定及び業界の指針等を遵守する。		環境に関わる法律の違反0件	環境に関わる法律の違反0件	環境に関わる法律の違反0件	環境に関わる法律の違反0件
4	環境配慮の経営推進	①グリーン購入		購入事務用品 100%	購入事務用品 100%	購入事務用品 100%	購入事務用品 100%
		②めっき不良による資源の無駄を削減する。	件	383	360	356	352
5	環境経営システム確立と環境意識の向上	①環境教育実施		年1回実施	年1回実施	年1回実施	年1回実施
		②家庭のエコ推進		家庭のエコ推進	家庭のエコ推進	家庭のエコ推進	家庭のエコ推進
6	環境方針及び環境保全情報の開示	環境情報開示		環境活動レポート作成、HP開示	環境活動レポート作成、HP開示	環境活動レポート作成、HP開示	環境活動レポート作成、HP開示

5. 環境活動計画

改善取組事項	具体的取組内容	担当部門
1. 環境負荷の低減		
1) 二酸化炭素の削減 (電力使用量の削減)	・ めっき浴等の温調タイマーの設定調整 (夏期・冬期でのON時刻調整) ・ 休止ライン等の管理	製造部門
	・ 空調温度・稼働時間管理の実施	全 部 門
	・ 不要部のこまめな消灯	全 部 門
2) 節 水	・ ライン毎の水量調整、休止時の止水	製造部門
3) 廃棄物の削減	・ 洗浄剤の有効使用	製造部門
	・ リサイクル物の有効利用	全 部 門
2. 環境汚染物質の削減	・ 有機溶剤の効率的な使用	製造部門
	・ 使用化学物質の使用量管理	製造部門
3. 環境配慮の経営推進	・ めっき不良による無駄の削減	製造部門
4. 環境経営システム確立と 環境意識の向上	・ リスクアセスメントの推進 ・ SDG s の周知、活動を開始	全 部 門

6. 環境活動の取組結果と評価

活動の実績および取組結果の評価

管理項目	単位	基準値 2017年度	実績		評価	目標		
			2020年度	2021年度		2021年度	2022年度	
<電力>								
電力使用量	Kwh	279,514	231,596	252,224	110%	○	265,538	262,743
電力料金	K¥	5,307	5,066	6,078	85%	△	5,041	4,988
二酸化炭素※	kg-CO ₂	139,757	108,387	118,050	116%	◎	132,769	131,371
<水>								
水	m ³	6,338	5,263	5,312	116%	◎	6,021	5,957
<廃棄物>								
一般廃棄物	Kg	680	560	160	176%	◎	646	639
産業廃棄物	m ³	10.5	13.5	0.0	200%	◎	10.0	9.9
廃液（有価物としてリサイクル）	L	2,735	1,961	0				
金属廃棄物(有価物としてリサイクル)	Kg	649	219	340				
汚泥(スラッジ)（有価物としてリサイクル）	Kg	2,519	1,911	1,897				
<VOC>								
廃油	L	2,690	2,400	0	200%	◎	2,555	2,528
<法規制の遵守>								
違反件数	件	0	1	0			0	0
<環境配慮の経営推進>								
不具合	件	383	481	428	88%	△	363	360
不具合件数 前年比20%削減								
<環境経営システム確認と環境意識の向上>								
環境教育	回数	1	1	1	100%	○	1	1
<家庭のエコ推進>								
家庭のエコ推進	回数	12	12	12	100%	○	12	12

※ 東京電力エナジパートナー㈱ 排出係数0.475(H29年度実績)を使用

- 今年度は、年間値で評価するとほぼ満足する結果となっているが、月単位での評価では得意先の受注動向もあり、目標をオーバーしている月も見受けられた。産業廃棄物類に関しては、設備の老朽化、不要設備の廃止などにより今後継続して増加の

可能性があるので注視して対策を立ててゆく。

不具合は、得意先から不具合品のみの返却から、全数返却となって選別等の工数が増加傾向となっている。

7. 次年度の取組内容

次の項目を重点活動として設定

- 1) めっき不良対策
- 2) 化学物質の適正管理
リスクアセスメントの活用
- 3) 省エネルギー
電力、水の適正使用
- 4) 廃棄物の削減
- 5) SDG s の実践と活用

活動が定着しさらなるステップを図るための模索の中で、昨年度より取り組んできた「本業の経営向上に資する目標(不良率の削減)」の目標設定を行い、また昨年度よりSDG s 活動を通じて継続的に品質保証と地球環境保全の活動を推し進めてゆく。引き続きエコアクション21(2017年版)の改訂に従い、環境経営システムの再構築を推し進める。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

三鷹市役所他、関係各機関などからの指導や、近隣の方々からの苦情や訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し記録

前年度同様、コロナウイルス汚染下による仕事量の減少、また、購入材料(薬剤)が流通、世界情勢の悪化により異常な高騰となっている。顧客品質の変更により不良による手直し費用、弁済費用も増加している。受入検査、めっき後検査により不良発生箇所を特定し改善してゆくことが必要となる。

新規分野に参入するため、営業部門のアウトソーシングを含めた営業力の強化を図ってゆく。その為、新規参入分野での品質、環境対応が必要となった。

売り上げは、昨年度より若干であるが増加傾向となっているが、材料等の高騰による経費の増加により利益を圧迫している。現場改善会議を立ち上げることにより、社内全体で不良対策、省資源化に向けた活動を行う。

積極的に継続的な改善を行って環境目標の達成に向けた活動を行えるよう努力致します。

株式会社特殊鍍金化工所
代表取締役 柴 太